

(様式1)

令和6年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 068	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 腰越漁協地先の砂泥の堆積による磯根資源への影響調査について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 ○ 当事業団は、水産資源の維持拡大、沿岸漁業者の経営安定を図るため腰越漁協地先の磯根資源として、サザエの種苗放流を実施している。 ○ 現在国道134号線の拡幅工事にともない、七里ヶ浜沖水深1～2メートルの磯根に堆積した大量の砂泥が、水産有用種であるアワビ、サザエ、ワカメの漁業に影響を及ぼしている。 ○ 水深1～2メートルの磯根で採取したサザエの大半に砂の塊が付着し、鎌倉、小坪地先に広がり漁業経営に影響を及ぼしていた。現在、減少傾向となっているが、引き続きのモニタリングが必要と考える。 ○ また、磯根に堆積した大量の砂泥が水産有用種であるアワビ、サザエ、ワカメの再生産に及ぼす影響について、調査するとともに磯根に堆積した砂泥の除去方法の調査研究を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	当該漁場における磯根資源の状況について、令和4年4月に腰越漁協、5月に鎌倉漁協に聞き取り調査を行いました。その中で砂の付着したサザエについての実態についても聞き取ったところ、現在はほとんどみなくなったとのことでした。今後は砂の付着の状況について随時聞き取りを行ってまいります。 また、国道134号線の拡幅工事に伴う七里ヶ浜沖の磯根の環境変化については、鎌倉市が開催する腰越漁協や藤沢土木事務所等との関係者調整会議に出席し、適宜助言等を行ってまいりました。今後も引き続き当該会議に出席し、助言等を行って参ります。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			